

公共施設再配置（更新素案）についての地区説明会における質問及び回答（城東中学校区・R6.7.4開催）

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
1	再配置の方向性	少子高齢人口減少	公共施設の再配置計画と合わせ、掛川市南部地域人口増をどのような対策と立案を示してほしい。人口減になれば、交通機関も困難なる可能性があるのではないかと？	市全体としては人口減少を抑制する手法として企業誘致や子育て支援を行っています。やはり地域の偏在が起きてしまっている状況です。市としてこのままで良い、何も対策をしない、とは全く考えていません。住んで頂くためにまずは移動手段として、公共交通の利便性を確保しなければなりません。先ほども説明にありましたが、デマンドや生活支援に加え、AI・人工知能の活用を検討していきたいと思っておりますし、自動運転の実証実験をしているところです。交通の問題についてできる限り改善していきたいと思っております。また、例えば普段は市の中心地にいる方が週末には余暇のために山間や海岸部に拠点を持つ「二拠点生活」による関係人口の確保等につきましても検討していきたいと考えていますので、地域の皆さまと一緒に協議していければと思います。	
2	再配置の方向性	官民連携の推進	公共施設の件ですが民間委託が多くなっていますが、将来を見据えた場合、国・県・市が責任を持って取り組む公共運営を重視していただきたいです。	民間事業者のノウハウを活用することで、公共サービスをより良いものにできる可能性がある施設につきましては、積極的に民間活用を図っているところです。御質問につきましては、施設の継続性やサービスの質に関する御心配の部分かと思いますが、当然民間事業者に任せきりにするのではなく、施設運営のチェック等の市の関与を残しつつ、民間事業者と協力しながら施設運営を行ってまいります。	
3	再配置の方向性	小中学校の再編	学校統合により、学校に近くなる、遠くなる子が出る。マイクロバス使用の場合、負担はあるのか？	市内では通学距離が小学生は片道4km、中学生は片道6km以上のお子さんが通学支援対象ということで、スクールバスを出したり、既存の路線バスの定期代を支給する等の支援を行っています。今後も続けていきたいと思っておりますし、再編・統合により学区が広まり、長距離通学のお子さんが多くなりますので、既存の支援基準の見直しを検討してまいります。現在、いくつかの学校で通学支援を行っていますが、基本は市負担で、保護者・御家庭に負担をお願いしていることはありません。ただ、基準の範囲内、本来なら通学支援の対象とならないお子さんで既存の公共交通を使って通学をしている場合は、御家庭で御負担頂いております。市としては通学距離の遠いお子さんについては、市負担で通学ができるよう対策を講じていきたいと考えています。	
4	再配置の方向性	小中学校の再編	学校の再編は、去年、一昨年に誕生した子どもの教育を考慮されているのでしょうか。少子化のペースが一気に進むと、再々配置が必要になるのでは？	御指摘のとおり、コロナ禍で出生数がかなり低下しています。ここ20年間は市内で出生するお子さんの数は年間1,000人から900人程度で推移してきましたが、昨年度は720人余りと人数が減っています。この数はコロナによる影響が一過性で元に戻って来るか、減り続けていくかというところはここ2~3年で結果が出てくるのではないかと考えています。教育委員会としてもこの数字がどのように推移していくのか、慎重に見極めたいと思っております。学校再編計画は、計画策定後5年毎に定期的な見直しをしていくことになっていきますので、出生数の推移についても定期的に見ながら今後の計画改定の際に反映していきたいと考えています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
5	説明会	説明内容	吉川市の施設の建築整備の総費用は？	平成25年に開校し、整備の総費用は38億2,900万円です。学校沿革に記載されています。	
6	再配置の方向性	小中学校の再編	小中学校の再編を2028年度までに行う予定となっているが、具体的な立地、施工時期はいつ頃に決まるか？	今年度から検討をスタートしており、建設場所は今年度中に決定したいと考えています。基本設計と実施設計をそれぞれ1年ずつの想定で進めていきたいと思っています。	
7	再配置の方向性	防災	防災の避難所になっているが、統合した場合の方向性は？避難民の集中が予想されるか？	基本的には統一校が広域避難所となります。しかし、統一校以外のところにおいても地域の皆さまの必要性に応じて避難所・避難場所として残すことを検討していきます。 仮に広域避難所が統一校1つになった場合、施設の収容人数はこれまでより減ると思いますが、それを補う方法として例えばテント村をそこに作るとか、エアータントを検討しています。能登ではエアータントが非常に効率的であったという成果も出ています。冷暖房も効きますので、1つの手段だと考えております。	
8	説明会	説明内容	令和6年4月1日現在の地区ごとの年齢別人口から令和22年の将来人口が推計できるため、それを地区住民に示せば納得度が上がると思う（資料1 P8）	資料P7・P8で将来人口の説明をいたしました。地区別にどうなっていくかという、現状、地区ごとの最新データは用意ができておりませんが、昨年度、将来人口推計はしております。地区ごとには皆さまへお渡しできるかという部分も含めて検討します。本日は御用意がなく申し訳ございませんが、今後検討させていただきます。	
9	再配置の方向性	30億円の財源不足	再配置することにより節約できる金額の見込みは	年間70億円かかるが用意できるのが年間40億円、年間30億円不足するため延床面積を25%削減するという中で、資料2の更新素案のまま進んだ場合、延床面積換算で25%減となり、金額で総額1,624億円となります。これを年間に換算すると30億円程度になります。そのような規模の削減を図っていく必要があります。	
10	再配置の方向性	防災	南海トラフ大地震のあった場合、この計画はどうするのか？	計画は情勢により変化します。50箇年の計画のため、状況に合わせて見直しをかけます。あくまでも、耐用年数が来てからどうする、ではなく、今の段階でこの施設のことを考えなければいけない、と計画を作らせて頂き、時代の流れや状況に応じて方向性も変わるかもしれませんが、適宜見直しをかけていきたいと考えています。	
11	再配置の方向性	地域コミュニティ	地域の拠点化がコミュニティの形成に繋がるという説明があったが、お年寄りや子ども達は施設が近くにあることで、集まる場、活動が活発に行われるように思う。「拠点化」が周辺地域の切り捨てにならないようにどのような配慮や対策を考えているのか？	公共施設の複合的なサービスを提供できるよう準備しながら、1番は公共交通を整えることで再編を考えていきたいと思っています。	
12	再配置の方向性	縮充	公共施設を減らすことにより、住民サービスの低下につながると思うが、どのようにしてサービスの向上を図るのかももう少し具体的に説明していただきたい。	学校を拠点をとするというお話をいたしました。例えば複合化した場合には学校の特別教室（音楽室・家庭科室・図工室等）を住民も使えるようになればと考えています。北公民館には中ホールのな部屋もありますが、学校内にも体育館よりは少し小さめの中ホールのな場所ができれば、地域の方も併用しながら使って頂ける施設になるのではないかと想定しています。公共施設は減りますが、住民サービスは低下しないよう、単体の施設では持てないような施設を造ることでサービスを利用できる状況を整えたいと考えています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
13	再配置の方向性	交通手段	今でもバスなどの本数が少ないが、施設をまとめることにより、交通手段は増える予定なのか？	例えばバスの本数が増えるのか、まずはそこだと思いますが、例えば小学校の通学路と兼ねてバス路線が増えるようなこともあればいいと思います。仮に叶わないとしても公共交通の維持に繋がると思います。またデマンド型のバス路線等、新たな交通手段として色々な形の中で、自家用車を運転できないような方々も今より快適になるよう検討しているところです。時間は掛かるかもしれませんが、そういったことも含めながら住み続けられる地域をつくっていきたいと思っています。	
14	再配置の方向性	少子高齢人口減少	現実的に、登下校など通学に不便をかんじるとさらに現役世代が流出していく可能性が有ると思いますが、何か対策はあるのでしょうか。	小中一貫校への再編は、地域の中で住み続けられる社会をつくっていくという側面を考えています。例えば学校では、単学級や複式学級の学校エリアに現役世代が住み続けられるかという部分もあるかと思っています。学校再編の中である程度の教育環境を整えることでそこに住み続けるという選択を積極的に取れるようにしていくことができるのではないかと考えています。それに伴い、公民館等、数が少なくなっても良いものがある、生き残っていけるような地域を公共施設の面からもつくっていかねばと思っています。とは言え、距離が遠くなるという問題はあるかと思いますが、全体の中で上手く解決方法を見出しながら進めていきたいと考えています。	
15	検討の進め方	情報共有	令和元年策定の方針についての進捗状況の精査はできているのですか。そのうえでの再配置計画なのでしょうか。	事例で紹介したとおり、進捗状況としては大東温泉シートピア・ならこの譲渡、南部のこども園化を進めてまいりました。現在は22世紀の丘公園たまり一なについて、温水プールのリニューアルを進めています。南部の各幼稚園跡地は民間利用もされる中で公募をしながら事業者を募っており、そうしたところも踏まえ、今回再配置の計画策定を進めているところです。	
16	説明会	説明内容	資料1 P8で北微増4%となっているが、範囲が少し大きすぎないか、ならここは除外した方がよいではないか？	今回は中学校区単位で説明会を開催しているため、このような資料出しをしています。北中学校区は西郷インター周辺からならこの里の辺りまで含まれています。小学校区でいうと城北小学校・西郷小学校になります。ならここは原泉小学校のあった区域になりますので、確かに人口は増えていない場所になりますが、中学校単位として出しています。	
17	再配置の方向性	公共施設の立地	中学校単位で考える基本理念は何か？	公共施設再配置は地域づくりの観点も含めた検討が必要と考えており、立地適正化計画や都市計画において地域づくりの単位を9中学校区としているため、中学校区単位での検討となっています。	
18	再配置の方向性	25%削減の目標設定	令和50年再配置△25%の・具体的施設名は？ ・決定方法は？ こども園、小中一貫校は減と判断してあるのか？	更新素案でお示した方向性が全て実現すれば、延床面積の25%を達成できる見込です。施設名・決定方法につきましては更新素案に記載の方向性を踏まえ、地域の皆さまと検討を進めていきたいと考えています。また、南部の認定こども園化に伴う旧公立幼稚園や学校再編に伴う跡地につきましては、延床面積としては減としつつ、その後の施設の処分や利活用を図る取組を進める必要があると考えています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
19	再配置の方向性	30億円の財源不足	費用はなぜ増やせないのか？	70億円掛かるところ40億円しか出せないのを増やせないのかということだと思います。増やしたい思いはもちろんあり、努力した上で初めて維持でき、そうでなければ更に減ってしまう状況にあると考えています。現状用意できているのが30億円程で、社会保障関係費、高齢化に伴う色々な必要経費が増えていく中で予算を増やすのは難しくなっています。もちろん市の発展を含めて税収を増やしたり様々な手段に取り組んでいます。それを踏まえても増やしていくのは中々難しいと想定しています。	
20	再配置の方向性	30億円の財源不足	税収の減少について、努力はしないのか？		
21	再配置の方向性	個別施設の方向性	市の194箇所の内に、中防災センター（コミュニティ）が含まれていないのでしょうか。	防災コミュニティセンターや佐束公民館は含まれておりません。これらの施設は地域の方々に費用面も含めて自発的に管理運営して頂いている施設であり、194の対象としている施設は市が費用負担しながら運営に関与しているものに絞っています。	
22	再配置の方向性	縮充	「縮充」ということばですが、近くの人にとって施設の充実メリットがあると思うが、遠くの人には行くのが不便で使いづらい。その辺りの不公平はどう解消していくのか説明してほしい。（できないと施設が遠い地域は限界集落化してい維持が困難になる）	遠くなるというのは大きなポイントで、例えば小中学校ではスクールバスでの対応を考えています。今の公共施設について考えると、地域ごとに施設を集約することで一定の需要を集め、公共交通の維持に繋がっていきたくと考えています。1番大きいのは公共交通へのアクセスに限らず、公共交通全体の問題が大きく、公的な施設だけではなく、病院やスーパー等へのアクセスも併せて考えていくべき問題と捉えています。市では公共交通全体の話として、既存のバスやデマンドタクシー、地域の方に運用頂いている地域支援車だけではなく、AIや自動運転等新技術の活用も含めて、新しい公共交通のあり方の検討を開始しているところです。そういったものを色々組み合わせながら施設が遠くなくてもそこに住み続けられるような地域を作っていきたいと考えています。	
23	再配置の方向性	個別施設の方向性	清水邸庭園が統合を検討とあるが、どこと統合しようとするのかよくわからない（というかできるのか）	I期で統合検討としています。お茶室が湧水亭にあり、建物自体の老朽化が進めば二の丸茶室と合わせて集約を図っていきたくと考えています。清水邸の建物がいくつかあるため、そちらも含め湧水亭については一体管理というところで集約化を考えています。	
24	再配置の方向性	行財政改革	公共施設のマネジメントの必要性については	公共施設の安全確保や、公共サービスを最適かつ持続可能な形で提供するためにも、非常に重要な施策と認識しています。	
25	再配置の方向性	各地域の平等性	人口減少時代のまちづくりの視点で話を詰める必要がある。バスを出す、通学支援等、掛川市が集中して拠点をつくる方向性でやっていると、周辺部は過疎化が進み、獣害がますます増えることが予想される。周辺部に人がいて草刈りをしないと維持はできない。そういった意味で周辺部を取り残さないまちづくりが必要だと思う。周辺部に住めば得するような施策をしないと地域が取り残されてしまうのではないのでしょうか。	周辺部を取り残さないことの大切なポイントの1つは移動手段、もう1つは地域福祉です。地域の福祉をどのように担保するかという点はまずまず重要になってきます。他地区では、自治会の公会堂が地域の拠り所になるので、ますます重要性を増すだろうというお話もありました。今、公会堂は基本的に自治会負担で直しています。建物の新設や修繕の際に市から多少補助がありますが、地域のコミュニティの維持持続も周辺部では死活問題になってくるので、そういった充実も考えていくべきだという御意見もいただいています。公共施設の再編の際には周辺部のまちづくりは大切なことと認識しております。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
26	再配置の方向性	小中学校の再編	中学校単位の統合にこだわる理由がわからない。出生数が722人なのであれば市内1校でも将来的にはよいのでは	<p>財政の話が先行していますが、それ以外に重要な点が人口減です。利用者のいない古い建物の話と財政の話が今回のベースとなっています。ただそれだけではなく、教育委員会の関係で言えば小中学校の子ども達の授業の問題等も複合的に重なってきます。本日は再編計画ということで建物の話が多かったですが、本当は色々な問題が深く関わっていますので、上手く言わないと説得力がないという話になってしまいますね。また、再編されて建物が建つ場所はいいと思いますが、再編されて建物が無くなる地域の心配があると思います。なんとなく古い建物が残って寂然としない、それは地域がどうになってしまうのかという不安からくるものです。今日は再編計画という事で大きな枠組と時期の話をしていきますが、各論に入った時には、再編があろうがなかろうが人口は減っていきますから、この時代にどういうまちづくりをしていけばよいか、コミュニティもあれば企業もありますから、一緒になって考えないと再編計画は上手く進まないでしょう。行政も地域の皆さんも一緒になってやっていく認識でおりますので、どうぞよろしくお願ひします。</p>	
27	再配置の方向性	30億円の財源不足	計画の説明はわかるが、なぜ税収がないのか説明してほしい。まず税収の見込みを示してほしい	<p>将来の財政計画の話が無く申し訳ございませんでした。年間不足する30億円は、市の単独事業で普通建設費（道路や建物を直す額）に匹敵します。ですので、30億円不足すると、地区要望の道路整備等は一切できなくなる金額で、重みのある金額です。</p>	